

いづみ

発行所 福井県大野郡 和泉村公民館
印刷所 松浦印刷所

公民館強調目標

健全な娯楽でよい正月を過ごす。親しい友達間の楽しい娯楽、家族ぐるみの朗らかな娯楽など、健全な娯楽は人の和合を計り、円満な家庭をつくり、平和な社会を築く。正月の娯楽は男も女も年よりも子供も、明るく朗らかに、しかも度をすぎず適量に。

1960年

賀正

十月十九日から十二月十二日まで約二カ月間にわたり行われた今次災害の各査定は小災害を除いて大略決定した

郷土再建へ力強く第一歩 村内災害復旧額 一億八千万円 査定額 決まる

公共土木施設	三九、八二四千元
河川	二二カ所
道路橋梁	一八、一三〇千元
農道橋梁	一六、三三五千元
農地	三四カ所
林地	一五、三七二千元
林道	一九路線
計	四三、一三六千元
用水施設	一四、六六七千元
計	五八、八〇三千元

災害復旧工事の補助率

今年の大災害 議されていることはよく皆様ご存を復旧する特別の事と思えます。この法案については、当村のよ



写真は 復旧した葦原国道金沢一岐阜線 (下半原地係)

うに大被害を蒙ったところではどの様に我々に恩恵を与えてくれるものかを知り、それぞれの復旧対策をたてなければなりません。大体この法案のうちで最も皆様に身近な関係部分のみを抽出して大略を説明いたします。

情熱の総てを復旧に

村長 杉本 又助



村民の皆様 新年おめでとうございます。和泉村民として昭和三十三年の元旦程張り切った気持ちで新年を迎え、今年こそはと決意を新にした年は生涯初めてでございます。



禍を転じて福となす年

議長 平野 治

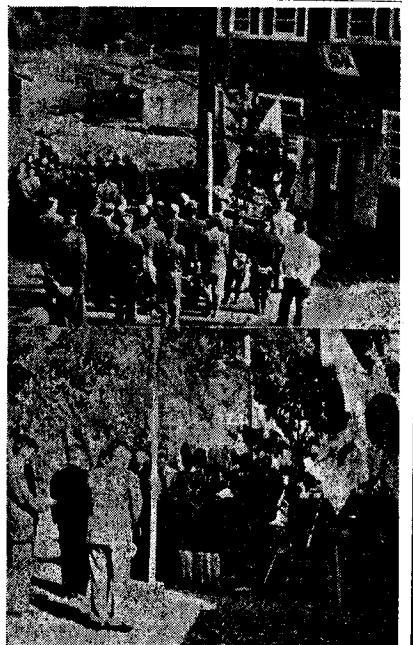
黎明の新春を回顧するに、昭和三十三年度は和泉村に於きましては誠に痛恨きわまりない年であったと思ひます。それに変わり本年こそは和泉村百年建設の第一歩目である



子年に關する所感

医師 石神 慶之助

新年御芽出度う存じます。各位の御健康と幸福をお祈りして年賀と致させていただきます。



(写真は中竜出張所庁舎落成式)

中竜出張所 庁舎等完成

昭和三十四年度、村主要事業である中竜出張所、大納校教員住宅の新築工事は八月一日入札を執行した。

役場の文書が横書になります

自治庁では今年一月一日から、文書の横書きを実施する。村に於てはこれに合わせ、文書の横書きにいたします。

世界農林業センサス 二月一日に実施

センサスとか基本調査とかよばれる統計調査には、國勢調査をはじめとして工業に関するもの、商業に関するもの、就業構造に関するものなどいろいろ色々なものがあります。今回実施される一九六〇年世界農林業センサスもその一つであります。

幾多重要問題山積している村政に村民各位の御鞭撻、御協力を御願し、皆様の御健康をお祈りしてご挨拶いたします。

この調査は各々の比較において日本農業の実態を把握し、あわせてわが国独自の立場から農業及び林業の実態を明らかにすることを目ざすものであります。調査に際しては出来る限り正確な数字の出るよう御理解ある皆さんの御協力をお願いします。

筆のそと



明けましておめでとございませう。

読者(村民)の皆様に心から御挨拶申上ります。

いま新年の原稿の筆を取らぬ間に、我が村始つて以来の多難であつた昨年一年をふり返り、きびしく胸にせまるものを感じると同時に、こんな中からも新たに迎へた年へのすがすがしい希望と光明を、今年一年常に我々の心から忘

この道二十年



冬朝の朝起き

冬朝の朝起き、窓越しに外を見て「やあー降つたぞ、雪が」とつぶやきつつ、見渡す銀世界の眺めは「じおの感じである。眺めまわして見ると「おや」とはるか向うの家の雪の中の人影に気がつく。古いマントかきつくりを頭からすっぽりかきつた腰のまがった老人が、深い雪の中をぼつりぼつりと道を歩いているのである。「あーや、早あけのじいさんが……せめて雨降ればだけでも道を歩けるか」と思つて庭先へ出て見るともう既に道はふみあげられていたのである。

希望と共に出発

15日成 あすを担う78名

七十八名の皆様、成人の日を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。皆様こそこの和泉村を、更に日本を、世界を担つて下さる前途の方々です。皆様は期待する所、誠に大なるものがあります。自重自愛され期待にそむか

も足袋をはかず素足である。全く行者を思わせる様になつてしまふ。何となく二宮尊徳を連想させる人である。この長大なカンジキをはいた道あけの姿は強大人々の脳裡に焼きついて、何事かを考えさせずにはおかない。

これが通称「かさのおじいさん」実名中山岸松さん(七十二歳である。写真は中山岸松さん)

- 下半原 中森 和子 山本 治子
中森 一義 中山 たつゑ
横山 たつ 林 たつゑ
林 信男
荷暮 三島 功
三島 康嗣 三島 功
箱谷 山田 信子
野村 正幸 三島 功
持穴 清子 田中 優子
大谷 清子 田中 優子
池尾 清隆 池尾 紀美代
若山 武子 若山 美知子
若山 千里 若山 莊一郎
野尻 宮原 竜雄 岩淵 安城
米 俵 絹子 池尾 一夫
山本 ミツエ 池尾 義雄
伊勢 四島 とし子 野村 新一
前畑 辰夫 福島 げ子
久 沢 高瀬 弘康
野村 智 尾崎 行雄
高瀬 宏子 宮本 ゆき子

石神 楽山

夜の叫び耳に突る泥の海
闇の波瀾の波動鐘乱打
飯の宿地の霧に雁の声
ヘリコプター地冷の情に糧まい
泥はねて穂つまかなしき風のあ

部落探訪

中竜鉱山の由来

現中竜鉱山は上大納区より一里の山の中にあつて寛元(七百年前)の山の中にあつて寛元(七百年前)の間に京都の武士の流人によつて発見されたものでありまして当時各個に採掘され、おもに鉛と銀を採取されたようです。明治以前と鉛及び銀を採取し、明治二十九年日清戦争の終結と共に休止されたようでありまして。然し明治以前に付ては細かい記録がありませんので、ただ伝説のようによつて野村の人、鍋谷太右衛門の努力に

明治初代は石川、富山、福井方面の方々も相当力を致されたようですが、中に上大納区谷口和三郎氏が吉村寛十郎氏(福井の人)の協力を得て八ヶ年間現中竜の下部探鉱を継続したが、遂に充分の目的を達せずして休止したのであります。

後明治二十七年同鉱山の東部に当る小萩鉱区を、上大納谷口曹代三郎氏及び徳野山崎氏(福井の人)と協力し開発、手吹煙等に鉛及び銀を採取し、明治二十九日清戦争の終結と共に休止されたようでありまして。明治三十七年二月上大納区谷口和三郎氏、大野の人、鍋谷太右衛門の努力に

依り当時総理大臣桂太郎を主とする桂二郎、木村謙、木村謙之助氏等の投資に依り、新奈貞一氏を鉱山長とし中山坑、戸板坑、人形坑等を採掘する事となり、一活深版鉱山と総称し、従業員千名を使用し、鉛を露天掘し、一時は手選送鉱し、後に日産粗鉛六十吨の選鉱場を建設し(クラシヤ)ローラー)に依る機械選鉱をして精製は始めは人の背後に、荷車道を開通して荷車輸送をしてベルギー國まで送鉱したのであります。

明治四十一年大阪亞鉛業株式会社が社長堀見政治氏(病院長)の探鉱する処となり、鉱業代理人に土佐の人で安倉三吉氏(鉱山長兼とし

中竜 風花句会抄

前川 正三

枯枝に鮮血の木の実落ちんとす

陳情者出てマツチ擦る寒き廊に炭をつぐ秒音夜の壁伝ふ

足袋脱げば恩師理めし砂こぼれ板の揺れに合はせ紅葉の踏渡る

産業再建への道

未曾有の台風禍に完膚なきまでにやられた私共の村も、新年をむかえて復旧に立ちあがらなければならぬ。この辺でどうして立ちあがるかを考えねばならぬ時である。

最近の景気は大体二年でしゅんかんすると言われる。神武景気の時も不景気になるのが早かつた。今度も今年の終り位からポツポツ又不況に入ると言うことも考えられる。これは我々は何時までもつても日の目を見る事ができないのでどうすればいいのかが、この村では五千人程の人間が一億円の金をかせいでいる。これだけの人間が、こんなことをして暮らして楽になる筈がない。何としても生産量をあげねばならぬ。

第一に農地を個人の手から集団経営にうつす、即ち農業専門の団体を一つ、この団体は農産と畜産をうけ持つ、経営を集団化するから無駄な経費は分けはけられるし、生産もよくなる。

第二に林業の経営も集団化する。この団体は植林から生産、加工、運送までやる。

第三にこれ等に必要物資を供給する団体をつつ、勿論、生産用資材のみならず生活資材も供給する。そして村民をその技術と能力に応じてこの組織に吸収する。農業や林業のような原始産業は経営が零細であり、何時までたつても日の当たらない産業である。これを日の当たるようにするには、他の産業のように経営を大規模化し、組織化して能率的に運営する他にない。村全体が一つの会社であり工場であり、村民がその会社工場

保健所より

かぜを防ごう

1 外気の温度を考慮して着物を厚くしたり、薄くしたりする。(冬はなるべく汗をかかない事、もしかいたらすぐ拭いて下着をとりかえる)

2 湯ぎめをしないようにする。

3 のどを大切にす。ホコリとつめた風はのどをいためる原因です。毎日うがい(水でよい)をする。マスクは効果が少ない。

最後に大切な事を一言。
イからの疲れや栄養不足はすべての病気に對する抵抗力を弱めます。過労をさけ、十分睡眠をとり、必要な栄養(美食品ではない)をとり、病気に對する強い抵抗力のあるようにならして、病気に負けないようにならして、ロしかし伝染病の場合は人間が自然に持つ抵抗力よりもつと、病気が力が強いことが多いので、役場で行う予防接種は必ず受けて、流行する伝染病にも負けないからたをつける。

(大野保健所)

人のうらさぎ

- 【出生】
中 龍 長谷川和司 秀雄武男
米 俵 池尾八重子 俊雄武女
川 合 鷲家喜代美 保 参女
米 俵 中山 伸治 森幸長男
【婚姻】
野 尻 大町さかゑ 三島 治雄
伊 勢 三嶋 孝雄
朝 日 三嶋 留尾
大野市柿島 三嶋 留尾
○上大納 原 維雄
野 尻 佐藤 公子
【死亡】
大 谷 若山 繁雄 五九歳
伊 勢 上田 佐兵 七七歳
川 合 中山 八二歳
川 合 中森 小一郎 五六歳
川 合 平野 隆子 二八歳

おわび

災害のため八月、九月、十月受付の方々には登載出来なかつた事をお詫びいたします。(編集部)